

令和5年6月30日時点

令和5年上半期消防統計 (1月～6月)



【総論】

I 119番通報

- 119番通報件数 1,836件。前年同期比 86件増加。
- 通報件数の約6割が救急関係の通報で、件数は1,126件。
- まちがいでの通報が163件、前年同期比 48件増加。

II 火災

- 火災件数 13件。前年同期比 1件増加。
- 建物火災が8件で、火災の約6割。
- 損害額 48,630千円、前年同期比 18,289千円の増額、死者4名。

III 救急

- 救急出動件数 1,152件。前年同期比 14件増加。
- 救急搬送人員 1,085人。前年同期比 6人増加。
- ドクターヘリの要請件数は、44件。前年同期比 6件増加。連携件数は、22件。前年同期比 2件減少。

IV 救助

- 救助出動件数 18件、うち救助活動件数 10件。
- 前年同期比で救助出動件数は8件増加、活動件数は4件増加

【お問い合わせ】

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部

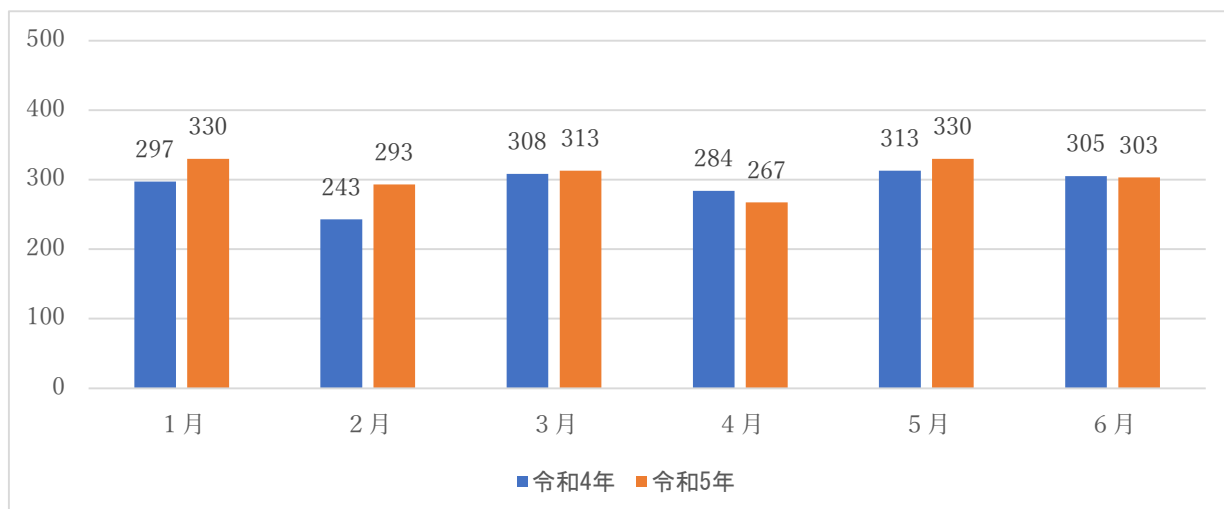
代表 0767-22-0089 消防総務課・警防課 0767-22-7814 予防課 0767-22-7816

I 119 番通報

① 119 番通報は 86 件増加

令和 5 年上半期の羽咋郡市広域圏事務組消防本部の 119 番通報件数は 1,836 件で、前年（1,750 件）より 86 件増加しています。

月別 119 番通報受信件数(前年比)



② 119 番通報のうち約 6 割が救急関係

119 番通報のうち、災害事案に関する通報は 1,182 件で、前年（1,175 件）より 7 件増加しています。119 番通報のうち、「救急関係」の通報が最も多く、1,126 件で通報全体の約 6 割を占めています。また、「問合せ」、「いたずら」、「まちがい」などの緊急性のない通報が 654 件となっています。

③ ドクターヘリの出動件数

令和 5 年上半期の石川県ドクターヘリの要請件数は 44 件、実際に連携したのは 22 件となり、前年同期比で要請件数は 6 件増加、実際に連携した件数は、2 件の減少となりました。

④ まとめ

今年の上半期は前年に比べ通報件数が 86 件増加しました。まちがいでの通報件数が 48 件増加しています。これは、全国的に、スマートフォンの緊急通報機能及び衝突事故検出機能の誤作動による通報が増加していることが要因と考えられます。当管内においても同様な現象が見られています。

Ⅱ 火 災

① 火災件数について

令和5年上半期の羽咋郡市広域圏事務組消防本部の火災件数は13件、前年（12件）より1件増加しています。

火災種別では、「建物火災」が8件（前年3件）、「その他の火災」1件（前年7件）、「林野火災」1件（前年1件）、「車両火災」3件（前年1件）でした。

市町ごとにみると、「羽咋市」4件（前年6件）、「宝達志水町」5件（前年0件）、「志賀町」4件（前年6件）でした。

② 原因について

たばこ火の不始末、ガスコンロに火を点けたままその場を離れる、清掃が不十分であったことからごみ等に着火し、出火するなど、注意力の欠如により火災が発生しました。

③ 損害について

損害額は、48,630千円、前年同期比18,289千円の増額となっております。建物火災の増加に伴い、焼損棟数が増加したため、損害額も増加しました。

④ 死傷者について

火災による死傷者については、4名の方が亡くなり、1名の方が負傷しました。各市町と連携しSNSを活用した火災予防や当消防本部へのホームページへ火災予防を呼び掛ける記事を掲載し、広報の強化を図りました。

⑤ まとめ

上半期の火災件数は昨年同期比1件増の13件であり、このうち建物火災が8件、火災件数の約6割を占め、火災の増加により損害額も増額しました。

また、火災により4名の尊い命が失われております。残りの半年、火災が起こらないように、そして、かけがえのない人命が失われることがないように、日々の訓練、消防車両による巡回広報及びホームページ・市町広報誌等での広報活動に邁進してまいります。

令和5年中(1~6月)の火災発生状況前年比較表

市町別	年	火災件数						焼損面積			損害額(千円)					焼損棟数				死傷者数			
		計	建物	林野	車両	船舶	その他	建物		林野(a)	計	建物	林野	車両	船舶	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	死者	負傷者
								床面積(m)	表面積(m)														
羽 昨 市	R5年	4	3		1			221			15,754	15,704		50			3	2	1			2	
	R4年	6	1	1			4	190	14		23,944	19,941			4,003	5	1		3	1	1		
	比較	△ 2	2	△ 1	1		△ 4	31	△ 14		△ 8,190	△ 4,237		50		△ 4,003	△ 2	△ 1	2	△ 2	△ 1	1	
宝 達 志 水 町	R5年	5	2	1	1		1	2	1	2	252	40	112	100		2			1	1			
	R4年	0																					
	比較	5	2	1	1		1	2	1	2	252	40	112	100		2			1	1			
志 賀 町	R5年	4	3		1			622	63	24	32,624	32,432	80	50	62	10	3		5	2	2	1	
	R4年	6	2		1		3	393	5		6,397	6,211	32	150	4	4	2		1	1	1		
	比較	△ 2	1				△ 3	229	58	24	26,227	26,221	48	△ 100	58	6	1		4	1	1	1	
計	R5年	13	8	1	3		1	845	64	26	48,630	48,176	192	200	62	15	3	2	7	3	4	1	
	R4年	12	3	1	1		7	583	19		30,341	26,152	32	150	4,007	9	3		4	2	2		
	比較	1	5		2		△ 6	262	45	26	18,289	22,024	160	50	△ 3,945	6		2	3	1	2	1	

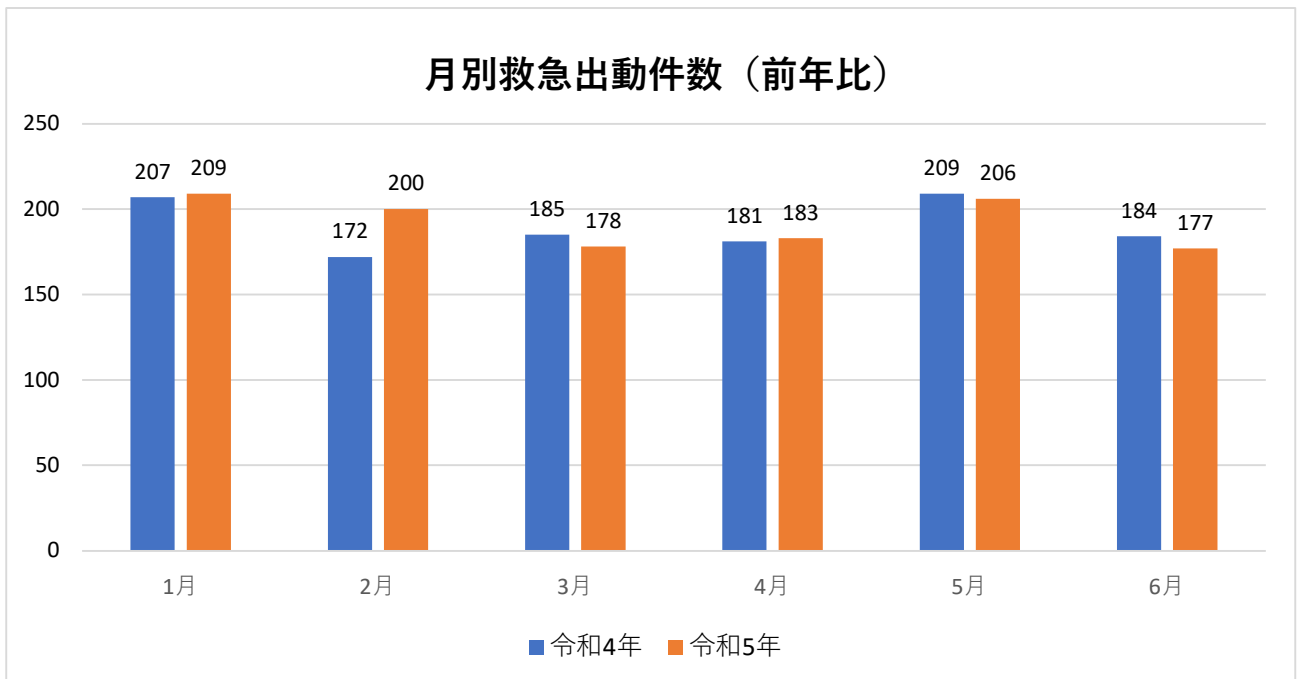
※ △は減少(-)を表します

Ⅲ 救 急

① 救急出動件数は前年より14件増加

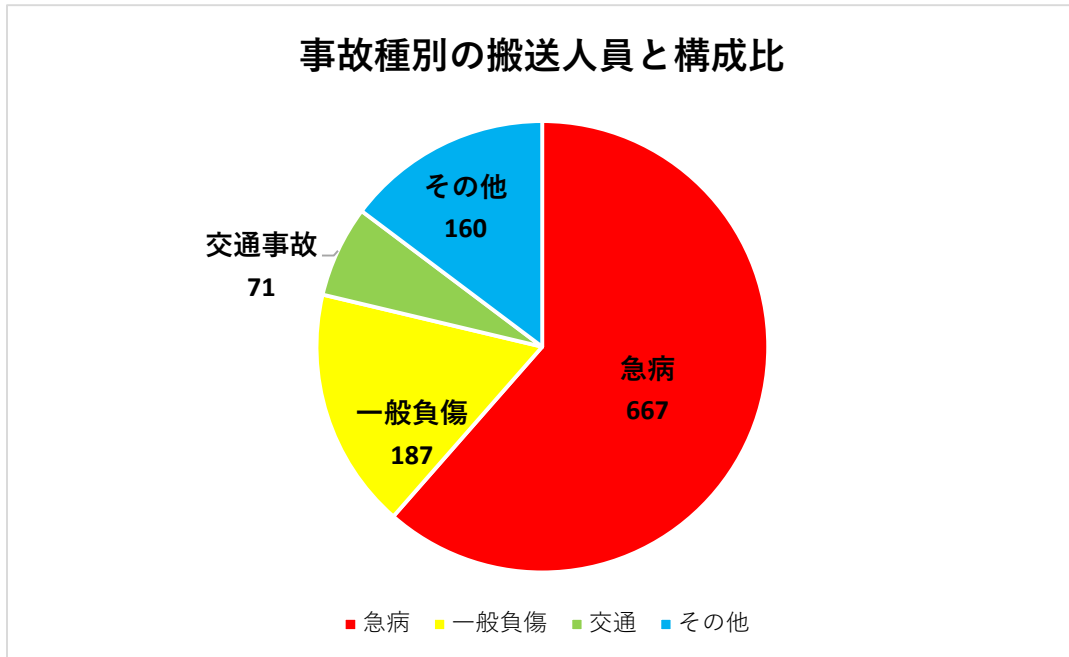
令和5年上半期の救急出動件数は1,152件で、前年(1,138件)より14件増加しています。

また、救急搬送人員は1,085人で、前年(1,079人)より6人増加しています。



② 事故種別救急搬送 1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」

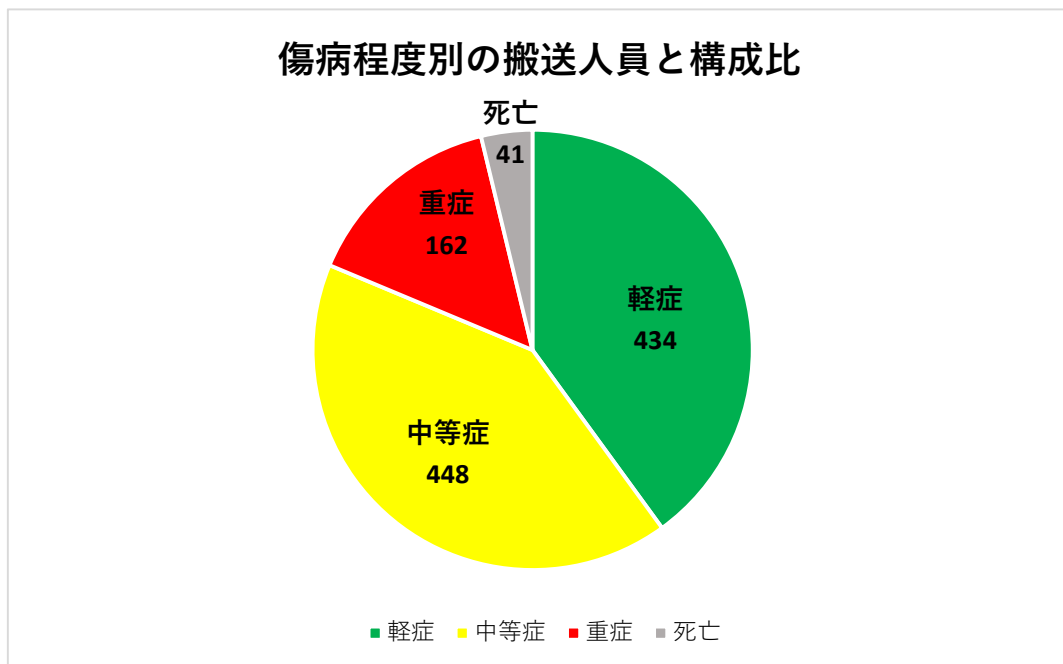
事故種別ごとの救急搬送人員は、1位が「急病」667件、2位が「一般負傷」187件、3位が「交通事故」71件、その他が160件の順となっています。



③ 救急搬送人員の約8割が中等症又は軽症

傷病程度別による搬送人員は、軽症が434人、中等症が448人、重症が162人、死亡が41人でした。中等症及び軽症が882人で、全体の約8割を占めています。

前年は、軽症が415人、中等症が424人、重症が196人、死亡が44人でした。軽症及び中等症の合計が前年（839人）に比べ43人増加しています。



④ コロナ禍による救急搬送業務への影響

救急搬送の際に発熱又は呼吸症状から、新型コロナウイルス感染症疑いを考慮して対応した事案は 291 件で、全体の約 2 割となりました。

救急搬送困難事案として、医療機関の受け入れを 4 回以上照会し、救急隊の現場到着から搬送開始まで 30 分以上かかった事案が 3 件ありました。

⑤ まとめ

救急出動件数について、一時は減少に転じましたが、令和 3 年から再度増加傾向となっています。また、救急搬送人員における中等症と軽症の割合は増加傾向にあり、それぞれを合わせると約 8 割を占めています。引き続き、圏域住民に対して救急車の適正利用を呼び掛け、理解と協力を求めていく必要があります。

新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の位置付けを季節性インフルエンザと同等の「5 類感染症」へと変更されましたが、引き続き救急隊の感染防止対策の徹底を図り、感染リスクの軽減に努めてまいります。

IV 救 助

① 救助出動件数及び救助件数

令和 5 年上半期の救助出動件数は 18 件で、前年（10 件）より 8 件増加しています。

また、救助活動件数は 10 件で、前年（6 件）より 4 件増加しています。

件数等 事故種別		出動件数	活動件数	救 助 人 員		
				合計	男	女
前 の 年 比 と 較	令和 4 年	10	6	7	4	3
	令和 5 年	18	10	7	6	1
火 災	建 物	2	2	2	2	
	建物以外					
交 通 事 故		8	4	4	4	
水 難 事 故		4	3	1		1
風水害等自然災害						
機械による事故		1				
建物等による事故		2	1			
ガス及び酸欠事故						
破 裂 事 故						
そ の 他 の 事 故		1				

② 事故種別出動件数

事故種別出動件数は、交通事故が8件で全体の4割を占め、水難事故が4件、火災及び建物等による事故が2件、機械による事故及びその他の事故が1件となっています。

区分	事故種別	火災		交通 事故	水 難 事 故	自 然 災 害 等	風 水 災 害	事 機 械 に よ る 故 る	事 建 物 等 に よ る 故 る	事 ガ ス 及 び 酸 欠 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	計
		建 物	建 物 以 外										
月 別	1月	1		2					1				4
	2月	1		3	1			1					6
	3月			1									1
	4月				1								1
	5月				1				1				2
	6月			2	1								1
計		2		8	4			1	2			1	18

③ まとめ

今年の上半期は、救助出動件数が大幅に増加しました。増加の主な要因は、交通事故、水難事故及び火災の救助出動件数が増加したことであります。新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へと変更されたことに伴い、外出自粛の規制等が要請されなくなり、人の流れが増加傾向にあることも影響していると考えられます。

年別		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
事故種別						
合計		12	10	10	10	18
火災	建物					2
	建物以外					
交通事故		6	7	3	6	8
水難事故			1		1	4
風水害等自然災害						
機械による事故		3				1
建物等による事故			1	3	1	2
ガス及び酸欠事故						
破裂事故						
その他の事故		3	1	4	2	1